

「女性活躍・男女共同参画の重点方針 2026（女性版骨太の方針 2026）」（原案）

に対する意見

白波瀬佐和子

2015年、第2次安倍政権下で「女性活躍推進法」が成立し、「重点方針 2015」が公表されたことで、女性活躍が経済政策として位置付けられたのが女性版骨太方針の始まりである。その後5年間、女性活躍が前面に出され、2021年以降は、より広い男女共同参画へとその内容が拡充され、現在では5年ごとの「男女共同参画基本計画」を長期戦略と位置付けて、毎年の「女性版骨太方針」（重点方針）が決定される。もともと、女性版骨太方針の基本的な狙いは、構造的な男女間格差を是正することであり、マイノリティであった女性たちを中枢の意思決定に参画させることと同時に、結果としての労働力不足にも対応するということであった。

構造的是正は、いうまでもなく長期の時間を要する。その一方で毎年公表される重点方針は、比較的短期の視点を反映しており、今回も17の戦略分野を前面に出して重点方針が展開されている。例えば、理系女子の教育については、文化やジェンダー観、といった社会的慣行が変わりにくい現状が背景にある。強調したいのは、女性版骨太方針が毎年更新される政策文書であるがゆえに、長期の構造改革と短期の政策サイクルのズレがある。中期計画目標と毎年の「重点」施策の二重構造において、少なくとも両者が連動するように設計する必要がある。現実には、新しいメニュー提示が優先されることで、政策として積み上げ、具体的な成果を出すまでのPDCAサイクルがあいまいである課題が残る。

制度改革と社会慣行がずれており、複数の省庁が関わることで責任主体が分散されて、KPIの評価も次の政策へとつながっていかない危険性がある。女性版骨太方針の開始から10年を経て、毎年の政治文書の作成と、長期にわたる構造改革との mismatch に対して、そろそろ見直しの時期にきているのではないか。少なくとも、ジェンダー格差について改善されたところはあるが、まだまだその程度は十分な達成とは言えない。